

# いずみさの昔と今 第335回

## 「池田谷久吉とその生涯①」 「池田谷久吉の経歴」

10月14日(土)より、歴史館いずみさの秋季企画展「泉佐野の建築家―池田谷久吉とその生涯―」が開催されます。それに伴い、今回から数回に分けて企画展に関連する情報や「池田谷久吉」について紹介していきます。第1回目となる今回は、「池田谷久吉の経歴」について紹介します。

明治30(1897)年4月13日に大阪府泉南郡佐野町に誕生し、同44(1911)年には佐野尋常高等小学校(現泉佐野市立第一小学校)を卒業します。実家はタオルの製造や販売を営んでいましたが、家業を継ぐことはなく建築家を志し、大正2(1913)年に市立大阪工業学校本科建築科(現大阪府市立都島工業高校)に入学し、中等建築教育を受けました。卒業後はいくつかの会社に就職し、大正9(1920)年12月から大阪府警察部に勤め、大正11(1922)年には大阪府建築監督官補に任命されました。ここでは、「都市計画法」や「市街地建築物法」に基づき、建築

物の確認申請審査や建築監督官補佐の仕事を行っていたそうです。府庁在職中から古建築の研究や調査を行っており、特に大正15(1926)年に行われた法隆寺五重塔の調査では、五重塔心柱下に存在する空洞の調査結果により、法隆寺の再建・非再建論に一石を投じました。府庁退職後、同年9月に「池田谷建築事務所」を設立し、住宅や工場だけでなく、学校や役場などの公共施設から社寺建築まで多種多様な建築物の設計業務を行い、それと同時に建築家だけにとどまらず、文化財の研究調査を行っていました。昭和4(1929)年には、大阪府史跡名勝天然記念物調査委員に就き、枚方市の百済寺の発掘調査をはじめ、岸和田市の久米田池、泉佐野市の佐野王子や犬鳴山など多くの文化財指定に携わりました。また、太平洋戦争の際には、大阪府内にある梵鐘を金属回収令の対象から外すべく、府内の寺院などにある1,200口余の梵鐘を調査し、泉佐野市の妙浄寺をはじめ

めとした82口の梵鐘が残されることとなりました。

建築においても歴史研究においても多大な功績を残した池田谷久吉は、満58歳で惜しまれながらこの世を去ります。建築家だけではなく、郷土史家・考古学者としての一面を持ち合わせていた池田谷久吉について、当館が所蔵する「池田谷資料」から彼の生涯をたどります。ぜひお立ち寄りください。

今回は、池田谷久吉が手掛けた岸和田城について紹介します。



▶池田谷久吉写真(個人蔵)

レイクアルスタープラザ・  
カワサキ歴史館いずみさの  
☎469-7140 Fax469-7141  
休館日 月曜日、毎月最終木曜日(いずれも祝日の場合は開館し、その翌日が休館)  
開館時間  
午前9時～午後5時  
(入館は午後4時30分まで)  
入館料 無料

## 日本遺産・葛城修験文化を巡る③ ～日根荘大木の農村景観～

「日本遺産」に追加認定された「葛城修験 ―里人とともに守り伝える修験道はじまりの地」のストーリーを構成する泉佐野市の文化財等を紹介します。

問合せ先 文化財保護課



日根荘大木の農村風景



◀日根荘大木の里コスモス園

犬鳴山七宝瀧寺を含む大木地区は、葛城修験の影響をもっとも受けた地域です。和泉葛城山脈にあります犬鳴山は、泉佐野の水の源流にあたり、戦国時代には七宝瀧寺の行者が、山麓の村々の雨乞い等の儀式を通じて、有力貴族九条家の荘園「日根荘」の支配下に組み込む役割を担っていたものと考えられています。

平成25年に大阪府初の重要文化的景観「日根荘大木の農村景観」に選定されていますが、犬鳴溝を含む7つの水路をはじめ農空間における水利システムが当時から変わらず現代まで継承される大木地区では、毎年10月には、地元大木まちづくり協議会主催の休耕田を活用した「日根荘大木の里コスモス園」を開園しています。葛城修験の里景観の豊かな自然風景をぜひ体験してみませんか。